

数学科における「主体的に学習に取り組む態度」

の育成

—ルーブリックを用いた振り返り活動を通して—

教育実践高度化専攻 教科指導重点コース 理数・自然科学系（数学）

氏名（高橋 雄大）

本研究では、生徒の振り返り活動に焦点を当て、ルーブリックを用いて学習の振り返りを行わせる取り組みを進めることで、生徒の「主体的に学習に取り組む態度」の育成ができると考え、本主題を設定した。

ダイアン・ハート（2012）のパフォーマンス評価におけるルーブリックの作成を参考にルーブリックの評価の観点を考え、振り返り用のワークシートを作成した。実践は、年間を通して行った。授業の終末に本時を振り返らせ、学び得たことをワークシートに記述させた。それを教師がルーブリックに沿って評価した。

研究の結果、継続的に振り返りをすることで、生徒は自分が「わからなかったこと」を起点にして問題解決の過程を振り返り、それに対してどのような学びをしたか記述することができるようになった。また、自らの考えを言語化できず学びに消極的だった生徒が、「何が分からないか」を自己評価できるようになり、自ら学びに向かうようになるという変容がみられた。